

ふるさと納税の実績報告とお願い

平取町の2020年度ふるさと納税の実績報告が、広報びらとり6月号に掲載されていました。それによると、寄付件数は7,790件、寄付総額は、1億7,745万1,000円でした。また、日高報知新聞（2021年6月17日）で、日高管内の2020年度ふるさと納税寄付額が、浦河、様似、新冠、平取の4町で過去最高額になったとし、平取では2019年度の1億6,704万円から1,000万円余り増加と報じていました。私達は平取町への応援の一環として、平取町への「ふるさと納税」を推進しています。平取町のホームページ「暮らし・手続」にアクセスするか、又は下記にお問い合わせください。皆様のご協力をお願いします。



〒055-0192 北海道沙流郡平取町本町28番地
平取町役場 観光商工課 商工労働係
TEL:01457-3-7703
FAX:01457-2-2277
E-mail:b.furusato@town.biratori.hokkaido.jp

平取町の物産展中止のお知らせ

都内で開催予定でしたされる「なまらいっしょ北海道フェア2021」及び「文京博覧会2021」は、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となりましたのでお知らせします。

会 員 募 集

新規会員の勧誘をお願いします。
以下にご連絡をお願いします。

・平取町役場まちづくり課広報広聴係

〒055-0192 北海道沙流郡平取町本町28番地
TEL：01457-2-2222（直通）
FAX：01457-2-2277
koho.kocho@town.biratori.lg.jp

・北海道びらとり会会長 廿日岩 久典

〒343-0046 埼玉県越谷市弥栄町4-1-287
TEL/FAX：048-976-8728
携帯 090-3246-4858
h-hisa@rg8.so-net.ne.jp

・北海道びらとり会事務局長 須藤 孝夫

〒344-0038 埼玉県春日部市大沼4-43-2-306
TEL/FAX：048-735-6329
携帯 090-8344-3938
sudo2689@lagoon.ocn.ne.jp

皆様の投稿をお待ちしております

会員の皆様からの投稿をお待ちしています。便りを会員相互の情報交換の場としてもご利用下さい。内容は自由、字数、締め切り期日は問いません。宛先（廿日岩 久典）は以下のとおりです。

郵送の場合：〒343-0046 越谷市弥栄町4-1-287
FAXの場合：048-978-8728
メールの場合：h-hisa@rg8.so-net.ne.jp

編集後記

仲山組合長には、ご多忙のところご無理をお願いして特別寄稿して頂きました。今年の猛暑はご多分に漏れず平取町のトマト栽培や稲作にも少なからず影響があったようです。トマトの販売計画42億円が達成されることを願っております。びらとりトマトは、首都圏でもスーパーで見かけることがあります。是非ご購入をお願いします。
オリンピック、パラリンピックが無事終わりました。アスリートの皆さんの真剣勝負に感動の毎日でした。また、大会ボランティアの皆さんの活動が世界から絶賛されました。一方で、日本のみならず世界的に新型コロナウイルス感染の拡大がみられています。今後ゼロコロナは難しいと思いますので、ウィズコロナでどのように社会・経済活動を進めていくのかそれぞれが考える時期にきているのではないのでしょうか。当面は、完全なコロナ前の生活に戻るのには難しいと思います。会員の皆様の中には、コロナ渦で大きな影響を受けられた方がいらっしゃると思います。心が痛みます。一日も早く平穏な日常が戻ってくることを祈ってやみません。皆様、どうぞご自愛ください（廿日岩）。

東京 北海道びらとり会便り

2021.10.10

09号



「北海道びらとり会便り」第9号では、2022年度総会について、びらとり農業協同組合長仲山 浩さんからの特別寄稿、安田 忍さん（岩知志）ご執筆の故郷の思い出、また、この秋に都内で予定されていた平取町の物産展中止のご案内などを掲載しました。

「北海道びらとり会」は、関東圏在住者で平取町出身者及び平取町にゆかりのある方の交流と親睦を図るとともに平取町の振興発展に寄与することを目的に設立された会で、北海道に平取町という町が存在することをわかってもらおうという思いを込めて「北海道びらとり会」と命名しました。

発行：北海道びらとり会
編集：廿日岩 久典 泉 典子
発行日：2021年10月10日

来年(2022年)の総会について

高齢者のワクチン接種はほぼ完了のようですが、その他の年代では11月完了とのことで現在のところ感染状況の見通しが立ちません。来年2022年度北海道びらとり会総会については、今後の感染状況の推移や社会情勢をみまもりながら、計画したいと考えております。どうぞご了承下さい。
昨年来より、新型コロナウイルス感染の影響を受け、会として役員会をはじめ具体的な活動はしておりま

せんが、「北海道びらとり会便り」は、発行を継続したいと考えております。この便りは、平取町まちづくり課広報広聴係のご厚意により、平取町のホームページの「びらとり町ガイド」の「びらとり会」に便り発行の都度、格納されています。これまで発行した全ての便りが格納されていますので、お時間のあるときにご覧下さい。また、ご家族、ご親戚や知人、友人の方々にもお知らせ願います。



びらとり農業協同組合代表理事組合長 仲山 浩さんからの特別寄稿文

仲山組合長には毎回北海道びらとり会総会にご臨席を頂き、ご挨拶を頂いておりましたが昨年、今年と総会が中止となりましたのでそれはかないませんでした。そこで仲山組合長にびらとり農業組合の現状や今後の取り組みなどの原稿をお願いしたところご快諾を頂き、仲山組合長より特別寄稿していただきました。是非、ご一読いただき我がふるさと平取に思いを寄せて下さい。



びらとり農業協同組合 代表理事組合長 仲山 浩です。

北海道びらとり会の皆様、お元気でしょうか。びらとり農業協同組合代表理事組合長 仲山 浩です。日頃より、北海道びらとり会の廿日岩会長はじめ、会員の皆様におかれましては、ふるさと平取町のためにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

毎年、総会の席で皆様にお会いできることを楽しみにしておりましたが、英断により今年度も中止されとお聞きし、書面をもってご挨拶と近況報告をさせていただきます。

今年の北海道平取町は、新春から穏やかな天候に恵まれ雪も少ない年でした。春作業も順調に進み、災害も無く農産物の生育は極めて良好でした。しかし、7月中旬から約1ヶ月間、札幌では97年ぶりに連続真夏日が15日間に更新されるなど、北海道は記録的にとても暑い日が続ぎ、当地においても経験したことが無いような連日の暑さでした。また、その間一度も降雨が無く牧草地では草が枯れる被害も発生しましたが、主力のトマトは施設ハウスで栽培されており水の管理は問題ございません。ただし、炎天下でのハウス内は各農家が遮光対策を行ってはおりますが、トマトの花に高温障害がでますので不着花や奇形果の発生があり、9月の収穫量や品質に心配はございます。今年度のトマト作付農家戸数は151戸、作付面積108.3ha(324,808坪)で販売計画42億円を目標に進めております。単価については4月下旬の初出荷から平年並みに推移しておりましたが、この猛暑により全国的に前倒して出荷され、7・8月は久しぶりの単価安となりました。しかし、会員様はじめ一般消費者の方々は、この夏はお安くトマトを購入できたことと思いますので、それはそれとして喜ばしい事です。ですがお盆以降は他の野菜同様に単価が上がると考えられますので、少し家計には厳しくなるかも知れません。

水田の作付面積は472ha(平取町内)で、春作業から播種、移植(田植)まで順調に進み、生育も例年通りでありましたが、同じく、7・8月の猛暑により一気に開花・成熟が進み平年より10日から2週間早い9/1に稲刈りをする農家が出るなど、忙しい収穫の秋となります。



畜産農家は減少傾向にありますが、肉牛(黒毛和牛)の肥育や素牛価格は安定しており、今後も町と一緒に
なって「びらとり和牛」のブランドを絶やすことなく、増頭に向けて努力してまいります。

加工品におきましては「ニシパの恋人トマトジュース」を始め、「びらとり和牛カレー」など人気商品を製造しておりますが、皆様に愛される新商品の開発に取り組んでまいります。

終わりになりますが、コロナ禍の中、平取町も各種イベントや懇親の場が激減し、町民、組合員、職員それぞれの人的交流は希薄となっております。一日でも早くコロナの対処法が確立され、北海道びらとり会の皆様方とマスクを通さずにお会いできることを祈念し、ご挨拶と近況報告とさせていただきます。

ふるさと 故郷の思い出 安田 忍(岩知志) 今の時代には経験のできない思い出



肉は食料に、耳は役場か営林署に持っていくと幾らかのお金を頂けたと記憶している(親が持って行ったので金額はわからない)。ウサギは、木の皮を食べるのですが冬になると食べ物は雪の下なるため駆除した証としてです。

月日はあっという間に過ぎ、昭和25年平取町仁世宇に生まれ、現在、70歳。19歳まで過ごした我がふるさとについて思い出しながら回想して懐かしんでみたいと思います。

岩知志小、中学校には約4km以上の山道(獣道)を、夏場はピピ(ホイッスル)を吹き(熊除け)、冬は膝までの雪をかき分けながら中学校を卒業するまで通いました。小学5年生までランプ生活、当然水道もなく暗くなれば寝る。水は沢から引いて、冬になると凍るので、川面にはった氷に穴を開けて水をくみ、天秤棒にバケツを下げて運ぶ。小さい頃から家の仕事の手伝(その時代は当然)、おかげで勉強すれとは親に一度も言われたことはなかった。子供の頃からの仕事で色んな創造性を育まれたと、後の人生に大きな、大きな財産と、今は親に感謝する次第です。

冬には、学校から帰ると何ヶ所もウサギの罠を仕掛け、次の朝学校に行く前に罠にかかったウサギを回収して、

中学を卒業すると、当時、金の卵ともてはやされた労働力の集団就職を希望したら、担任の石川先生に、これからは学問の時代と言われ、振内高校(定時制)に入学しました。アルバイトとして振内郵便局に泊まり込みで電報配達の仕事しながら学校に通い、授業中でも電報が入ると呼び出され、届けてはまた授業に戻るという高校生活をおくりました。当時の郵便局長さんは、北海道びらとり会会長の廿日岩さんのお父様でした。これも何かのご縁と驚いています。お父様には大変お世話になりました。

高校卒業後、東京で一旗揚げる野望を持って東京の大学に来ました。現在は、全ての事業を引退して息子二人の孫達の成長を楽しみながら女房と旅行三昧と思いきやコロナ渦になり、早く収束するのを待ち望んでいるところです。

山奥の厳しい自然、生活、環境が育てくれたおかげと故郷に感謝いたしております。